

# 道徳科学習指導案

指導者 T1 平田 剣士郎  
T2 平本 敏明

- 1 日時 令和元年11月7日(木) 第4校時
- 2 学年 第1学年 (20名)
- 3 主題名 集団の充実 (C よりよい学校生活, 集団生活の充実)
- 4 ねらい 学級の雰囲気を変えたものについて考えることを通して, 集団の一員として協力し合っ  
て集団を築くことの大切さに気づき, 集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活  
を充実させていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。
- 5 教材名 「むかで競走」 (出典:「あすを生きる1」 日本文教出版)
- 6 主題設定の理由

## 〔主題観〕

本主題は、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」内容項目C「よりよい学校生活, 集団生活の充実」の「教師や学校の人々を敬愛し, 学級や学校の一員としての自覚をもち, 協力し合っ  
てよりよい校風をつくることとともに, 様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団  
生活の充実に努めること。」を基に設定した。

生徒にとって学級や学校は, 生活の大半を過ごしていく大切な場である。そして学校は, 身近な公  
的な集団生活の場でもある。生徒は, 学校を取り巻く様々な集団の中で, 自己の役割を自覚して責任  
を果たし, 互いに深く関わり合っ  
て相互理解を深め, 協力し合っ  
て生活していくことで成長を遂げて  
いく。学校卒業後も様々な集団や社会の一員として生活していく生徒にとって学校生活は, 大きな役  
割をもつと考える。

だが, 中学校に入学して間もない段階では, 学校に対する愛校心, 集団への帰属意識は十分とは言  
えず, 自己の思いを先行させてしまったり, 一部の集団の所属感や一体感を強く求めすぎたりして,  
排他的になってしまったりする。

そこで, 一人一人が集団の一員としてよりよく生きていくためには, 所属する集団の意義や目指す  
目的を十分に理解し, 自己の役割と責任を果たし集団生活を充実させていこうとする道徳的実践意欲  
と態度を養うことが必要である。また, 集団の中で, 自己の役割や責任を自覚することは, 自己の資  
質・能力を高め自分自身の向上にもつながっていくと考え, 本主題を設定した。

## 〔生徒観〕

(略)

## 〔指導観〕

本教材は, 運動会のむかで競走をめぐって学級やリーダーを務める主人公が変容していく内容であ  
る。中学校生活最後の学年として何とか優勝したいという思いで, リーダーに立候補した拓也は, そ  
の思いが先行し過ぎて学級をうまくまとめられなくなる。そのきっかけの一つとして, 練習でいつも  
みんなの足を引っ張ってしまう運動が苦手な一宏の存在がある。次第に一宏さえいなければ上手くい  
くのという雰囲気が学級を支配し, リーダーであるはずの拓也も異を唱えることができなくなる。

しかし, ある時級友と一緒に特訓をしている一宏の姿を目撃した拓也は, リーダーとして自分が取  
っていた行動を改め変容していく。むかで競走の目標も「優勝」から「全員転ばず走りきる」という  
目標に変わり, 結果は準優勝であったが完走した後, 学級全員が一宏たちに駆け寄るような集団に変  
わっていく。

本教材の学級の雰囲気や拓也の変容を考えることで, 集団生活を充実させていくために必要な一人  
一人の集団としての自覚や協力し合っ  
て集団を築くことの大切さに気づいていける教材である。

- 7 準備物 教科書, 道徳ノート, 発問短冊, イメージマップ, マジック

8 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き (○：主な発問，◎：中心発問)	指導形態		○指導上の留意点 ☆評価の観点
			T 1	T 2	
導入	1 文化祭を想起し，課題意識をもつ。	○ 文化祭を通して，クラスのこと考えたことを振り返りましょう。 ・良いものになったと思う。みんなでまとまって（一丸になって）できたと思う。 ・「成功とか」，「良かった」とは言えないと思った。来年は「成功」と言えるように頑張りたい。 ・初めての文化祭としては成功したと思うけど，このままでは絶対だめ。	発問		○ 文化祭後の振り返りを紹介することで，課題意識をもたせる。 ※事前に道徳ノートにそれぞれの振り返りを貼っておく。
展開	2 教材「むかで競走」について話し合う。 ①教材のクラスが抱える問題を考える。 (グループ→全体)	○ このクラスの問題点はどのよう なところだと思いましたか。 【拓也】(むかで競走のリーダー) ・朝練に遅刻するなど無責任。 ・リーダーらしくない。 ・「優勝したい」ばかりで周りが見えていない。 【剛】 ・嫌な奴。 ・一宏の悪口や嫌味を言う。 ・練習は頑張っている。 【一宏】 ・練習でこけてしまう。 ・足を引っ張ってしまう。	発問 机間指導	範読 机間指導 板書	○ 教材に出てくるクラスの問題を感じる点を意識させながら読ませる。 ○ イメージマップを用いて，登場人物ごとに問題点を考えさせる。 ○ 競技に取り組んでいったクラスの実態を押さえる。 ○ それぞれの役割や人柄を捉えさせていく。 ○ グループで考えさせることで，視点を一つに絞るのではなく，多角的にクラスの課題を見出させる。
	②クラスの暗い雰囲気を生んだ要因を考える。	○ 一宏をよく思わないクラスの雰囲気は，どうして生まれたのでしょうか。 【役割について】 ・リーダーがちゃんとしていない。 ・リーダーが止めないから。 【集団について】 ・マイナス発言。 ・勝ちたい，優勝したいばかりで，一宏をのけ者にしようとした。 ・みんなの気持ちも分かる。 ・自分も一宏のせいにしそう。 ・こんなクラス嫌だ。 ・クラスの状況を何とかしたいが…。	発問 机間指導 補助発問	机間指導 補助発問 板書	【補助発問】 ・自分なら，クラスの雰囲気に対抗して一宏をかばえるかな。 ・この時，リーダーとしてどうしたらよいだろう。 ・一宏はこの雰囲気の中，どんな気持ちだっただろう。 ・こうしたクラスをどう思いますか。 ○ 拓也や一宏，級友の置かれたクラスの雰囲気から，何とかしたいが，出来ない困難さに気づかせる。 ○ うまくいかない時に，人に当たってしまう弱さにも理解を示す。(人間理解)

	<p>③主題に関わる教材の道徳的価値について考える。 (個人思考→グループ→個人思考)</p>	<p>◎ みんながかけ寄るほど、クラスが団結したのはどうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一宏の努力やそれを支えた二人の優しさ、協力があったから。</li> <li>・みんなも一宏の頑張りに応えたいと思ったから。</li> <li>・拓也がリーダーとして自覚し、取り組んだからみんなもついていったから。</li> <li>・クラスがみんなの思いを考え、行動できるようになったから。</li> <li>・目標が、「優勝」から「全員転ばないで完走」と変わったことで、みんなが協力し合えたから。</li> </ul>	<p>発問 机間指導 補助発問</p>	<p>机間指導 補助発問 板書</p>	<p>○ 一人一人が集団生活を充実させるために重要な存在であることに気づかせる。 <b>【補助発問】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして一宏の頑張りほこんなに力があるのだろう。</li> <li>・ 一宏の頑張りだけでここまで変わるものだろうか。</li> <li>・ 一宏の特訓を見た拓也はリーダーとして、どのようなことを考えただろう。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>3 自分の生活を振り返る。 (内省化) <b>【未来へのヒント】</b></p>	<p>○ 文化祭の振り返りをもとに、自分の考えが変わったことや新しい気づきを「未来へのヒント」に残しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人を大切にしていくことで、集団は団結していける。</li> <li>・ 色々な個性の集まりが集団だと思うそれらをつないでいくことが大切。</li> <li>・ 集団をまとめていくことは難しい。一人一人の考え方や思いが違うから。だけど、それを乗り越えまとまった集団は、いろんな充実感を得られると思う。</li> </ul>	<p>発問</p>	<p>板書</p>	<p>○ リーダーがいるだけで集団がまとまるのではなく、一人一人の存在も重要であることに気づかせる。</p> <p>○ 文化祭後に書いた振り返りをもとに、本時で考えたことも含めながら、これからの自分に生かす思いを記入させる。</p> <p>○ 未来へのヒントを共有させる。</p> <p>☆ 集団の一員としての自覚をもち、協力し合って集団を築くことの大切さに気づき、集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活を充実させていこうとする意欲を高めることができたか。(発言、ノート)</p> <p>○ 本時の主題と関連させながら文化祭でのエピソードを紹介することで、本時の学びを自分の生き方につなげさせる。</p>
	<p>4 文化祭で見たクラスの姿について振り返る。</p>	<p>○ みんなでやり遂げた文化祭ではこのような姿が見られました。紹介します。</p>	<p>発問</p>		